日本性科学会ニュース

第36巻 第3号　　平成29年（2017年）9月

発行人：大川　玲子　印刷所：㈱ 絢 文 社

第37回 日本性科学会学術集会

テーマ：セクシュアリティと教育・福祉・医療の交錯
日　時：2017年10月15日（日）9:00～17:30
会　場：大阪府立大学Ｉ-site なんば（南海電鉄なんば駅から徒歩12分、地下鉄御堂筋線・よつ橋線「大国町駅」から徒歩7分）2階フロア全体　C1, 2, 3大会議室など
学会長：大阪府立大学地域保健学域教育福祉学類　教授　山中　京子
【プログラム】

8:55～ 9:00　開会の挨拶
9:00～10:20　一般演題ⅠⅡⅢ（2会場に分かれて実施）
9:40～10:20　シンポジウムⅠ　セクシュアリティと看護　座長：渡邊　香織（大阪府立大学）
(1)　助産師がおこなうセクシュアリティ支援　（佐保美奈子：大阪府立大学）
(2)　出張性教育授業を活用した教育と福祉をつなぐ取り組み　（古山　美穂：大阪府立大学）
10:20～11:30　シンポジウムⅡ　性の加害にまつわる神話　座長：東　優子（大阪府立大学）
(1)　思春期相談から見えてくるDVの実態（上村茂仁：ウィメンズクリニックかみむら院長）
(2)　多様な性、多様なカップル～DV加害と被害～　（いくの学園相談員）
(3)　強姦を強制性交と呼ぶ社会におけるセックス神話　（岡田　実穂：RC-Net代表）
11:30～　昼食・休憩
12:30～13:00　ランチョンセミナー　メディアと性情報　演者：宋　美玄（産婦人科医）
13:00～13:30　会長講演　性科学の学際性の再検討　座長：大川　玲子（日本性科学会理事長）
演者：山中　京子（大阪府立大学）
13:30～14:40　特別講演　知的障害と性教育（同時通訳あり）　座長：山中　京子（大阪府立大学）
演者：シャーロッタ・ローフグレンモーテンセン（スウェーデン・マルメ大学）
14:45～15:55　シンポジウムⅢ　いろいろな性と愛のカタチ　座長：早乙女智子（京都大学）
(1)　「バリバラ」で語られない性　（熊篠　慶彦：ノアール理事長）
(2)　エイズ業界で語られない性　（大北全俊：東北大学）
指定討論者：シャーロッタ・ローフグレンモーテンセン（スウェーデン・マルメ大学）
15:55～17:15　シンポジウムⅣ　性の科学と教育の未来　座長：高村　寿子（自治医科大学）
(1)　性教育：こどものうちから伝えておくべきこと　（関口　久志：京都教育大学）
(2)　恋愛離れ？分極？若者の性のホンネと教育　（染矢明日香：ピルコン理事）
(3)　多様な性と教育
（土肥いつき：高校教員・セクシュアルマイノリティ教職員ネットワーク）
(4)　性教育で人類の未来をつくる　（小貫　大輔：東海大学）
17:15～17:25　次回会長挨拶
17:25～17:30　閉会の挨拶

本部事務局　大阪府立大学地域保健学域教育福祉学類　東　優子
FAX:072-254-9798　E-mail:JSSS37@ml.osakafu-u.ac.jp
ホームページ：http://jsss37.kenkyuukai.jp/

なお、下記プログラムも同時に開催されます。

第17回　日本性科学連合　性科学セミナー　10月14日（土）13:00～17:00
「これからのオチンチンの話をしよう－男性のセクシュアリティへの理解と支援－」
GID（性同一性障害）学会　エキスパートセミナー　10月14日（土）10:00～12:00

Vol. 36
No. 3

日本性科学会
〒113-0033　東京都文京区本郷3－2－3　森島ビル4F
TEL・FAX　03－3868－3853

追悼　武田敏先生を偲んで

日本性科学会理事長　　大　川　玲　子

2016年9月12日、日本性科学会常務理事・千葉大学名誉教授の武田敏先生が逝去されました。ここに謹んで、追悼の辞を捧げたいと思います。

先生は本会の前身であるJASCTの設立メンバーとして、終始本会の指導的な性科学者でありました。産婦人科医としての先生は著名な子宮癌の病理学者であり、早期発見のための健診システム発展に尽力されました。私も千葉大の産婦人科入局当時、ご指導を受けた者の一人です。一方、性科学の大事な分野である性教育も、先生の生涯をかけた仕事でありました。早くから千葉大学教育学部の教授として、性教育の専門家の育成、さらには全国の性教育に指導的に関わってこられました。

複数の分野で、ご自分の研究と同時に多くの実務家、エキスパートを育てられましたが、勉強会では、先生が指導者なのに茶菓の気配りをなさり、皆を恐縮させたというエピソードは、ユーモラスな思い出として多くの方に共通です。私が設立時のJASCTに参加できたのも先生のお誘いでした。以後日本性科学会幹事へのご推薦、第21回性科学学会（2001年）主催など、振り返ればみな先生の力強い後押しあってのことでした。

先生は海外の文献などから、常に新しい概念を性科学会に紹介されました。1988年に第8回日本性科学学会を主催されましたが、その時のテーマは「性器疾患の告知了解 Informed Consent」いわゆるムンテラの科学的検討、というものでした。今日の医療では当然の概念のインフォームド・コンセント、当時は全く新しい言葉でした。日本性科学会としてセックス・セラピーの認定制度を開始する時、セラピスト、カウンセラーの定義を幹事会の合間に完璧な文章で示し、そのまま採用になったのも懐かしい思い出です。

2000年初めごろからのいわゆるバックラッシュの流れとともに、「性教育バッシング」が起こり、「過激」な性教育として多くの教員が排斥されたころ、先生は大変悩まれたと推察します。先生の性教育への発言はどちらかというと文科省を刺激しない内容、文言になっていきましたが、それは「性教育を潰させない」という一念でされたことでした。晩年、体調を崩された先生は「残りの力を性教育に注ぐため、性科学会を含め他の仕事から退く」とおっしゃいました。実際に私が先生に最後にお目にかかったのは、亡くなる少し前の千葉県性感染症研究会という医療・教育者の集まりでした。そこでフロアーから発言される先生からは、いつまでも性教育とそれを担う人たちを支えていきたいという思いが伝わってきました。もちろん会場には、同じ産婦人科医として生涯支え合ってこられた祥子夫人もおられました。

奇しくも葬儀は第36回日本性科学会学術集会が長野市で開催された日でした。先生と本会とのご縁とは思いつつ参列はできず、また追悼文がこのように遅れたことを併せ、先生にもご家族にもお詫び申し上げます。思い出は尽きず紙面は足りないほどですが、日本性科学を代表して御礼申し上げます。武田敏先生、長い間ありがとうございました。

（2017年9月御命日に）

書籍紹介

『男性機能の「真実」』

ブックマン社／著者　永井　敦

聖隷浜松病院泌尿器科　今　井　　伸

様々なシモの問題にひそかに悩む世の中高年男性の方々、朗報です。

男性機能のスペシャリスト、性機能専門医でありかつセックスセラピスト（日本性科学会認定）でもある永井敦先生から素敵な贈り物（有料）が届きました。

『男性機能の「真実」』

主にセックスに関連した男性のシモの問題や悩みについて、わかりやすい言葉で解説されている、男性の男性による男性のための著書です。勃起の問題、射精の問題、LOH 症候群（男性更年期）などの男性の個人的な問題から、パートナーとの良好な関係の築き方など、男性なら誰でも気になる内容が盛り沢山ですが、読みやすいのであっという間に読めてしまいます。それでいて、内容が具体的で実用的なのも本書の特徴です。特に、「熟年カップルがセックスを楽しむための10カ条」では、熟年カップルがセックスを楽しむための具体的な方法が述べられており、早速読んだその日から実践してみたくなる中高年男性はきっとも多いことでしょう。ここを読んでいる途中、性機能障害や LOH 症候群で私の外来に通われている中高年男性が数人頭に浮かんできて、「これをぜひ読んでもらえば、外来中の質問が減って、診察時間も短くなるかも…」と良からぬことを思いついてしまいました。

この著書の魅力は、学術的な面もありつつ、かなり俗っぽい話を織り交ぜてあるところであると思います。勃起や射精のメカニズム、生殖器の発生、動脈硬化と ED の関係など、これから男性機能の勉強をしたい医療者にとって入門書となりうる内容に、「赤い球の伝説」、「後から出てくるたらり精液」「男のオルガズム考」「腹上死の真実」など男性の下ネタトークの定番が所々で挿入されています。さらに、シモの問題なら「何でも盛り込んじゃえ」という感じで、「陰茎絞扼症」「膀胱異物」「陰茎切症」など泌尿器科医あるある的な興味深い疾患についてもふれられています。下半身の話好きな方にはたまらないことでしょう。セックス Q&A では、出版社に寄せられた男女の性についての質問に回答されていますが、質問内容がちょっと変化球でも見事に打ち返しておられます。

「男性の下ネタをいかに学術的に語るか」ということに長年心血を注いでこられた永井先生（と私は勝手に思っていますが）の真骨頂ともいうべき1冊ですが、勢い余っておまけとして『泌尿器科日めくりカレンダー』が載せられています。ここだけはただの下ネタであり、男性目線100％ですので、お堅い方と男性の下ネタトークがお嫌いな方はご了承ください。

「性の健康デー記念イベント」2017を終えて

早乙女　智　子

性の健康デー 9月4日は、「世界性の健康学会：WAS（World Association for Sexual Health）」が提唱した記念日である。2010年から始まったこのイベントも、今年も多くの方のご尽力を得て、何とか開催することができた。会場は四谷のルークホール。持田製薬さんには大変お世話になった。スタッフ含めて約60名というこじんまりした会になったが、いつになく聴衆が固唾を飲んで聞き入る姿に内容の奥深さを感じた。学会としては学術集会ではなくお祭りとして一般の人に働きかけたいという意図があり、それを心掛けている。

今年のテーマは、Love, Bonding, and Intimacy（愛、絆、親密さ）というもので、今までに比べてあまりに直球で幅広いものだった。お願いした演者お三人が、こちらの無茶振りともいうべきお題に本当に真剣に取り組んで下さったことはいくら感謝しても足りないくらいである。

最初の演者は、斉藤麻紀子さんの「愛を知る道のり」。横浜で「NPO 法人 Umi のいえ」を主宰している、通称女将。お母さんたちと助産師さんの応援団として、様々な人の声に耳を傾け、癒し、人や地球にやさしい生き方を模索している。斉藤さんのお話は、様々な心の痛みに寄り添うようなバックグラウンドを跳ね飛ばす、どっぷりとした家族愛の話だった。朝の「性活」ののろけ話に始まり、今は演劇の脚本家となった息子さんのうつに振り回される日々、そして今年、恨んでさえいたお母様を姉君とご自分たち夫妻でさすりながら看取ったお話。山伏修行で3日間、言葉を発しない修行をして見つけた自分の女性性。地球規模で、あるいは宇宙規模で、様々なエネルギーを変幻自在に出し入れするが如き絆の世界に圧倒された。

次の演者は、今賀はるさんの「セックスワークから見る LOVE」。いわゆるカワイイ外見をよそに、芯の太さは頼もしい限りだ。彼女の仕事は風俗嬢。仕事に貴賤はないというが、貴賤どころか、すべての働く人に見習って欲しいくらいの探求心と仕事きっちりぶりは賞賛に値する。今賀さんには「愛」を語って頂いた。客からの指名の多い人は恋愛下手だという。性のことは、グラデーションだと思っているが、もしかしたら、オクテの女性は思いっきり相手に合わせる性戯は得意でも、自分を出す性は苦手であり、そこに切り替えスイッチが存在するのかもしれない。性の多様性はこんなところにもあるのかなと思う。

最後は締めの石丸径一郎先生の「不倫・浮気と純潔・貞操」。愛と、絆と、親密さというお題を、定義から入って綺麗に丁寧に分類しながら徐々に各論に入っていく辺りは、大学の講義さながらでメモが取り切れず、ため息をつきながらパワーポイントを眺めた。お忙しい中、普段とは違う課題にどこまで時間を割いて取り組んで頂いたのだろうと思うと申し訳なくも思う。何をもって不倫というのか、ゲイ文化の中でもみんなが同じではない。ヘテロセクシュアルでも同じことだが、秘密を持つ権利や、お互い浮気をしてもよい契約など、自由と葛藤が入り混じり、どうしたいのか、相手にどうして欲しいのかが表現できることが大事だと知る。3人の演者の話を聞いていると、悩むことは何もないように一瞬感じ、そしていや、そんなはずはない、と現実に戻る。そんな妄想や空想、お話の世界に引き込まれながら、日曜日の午後はあっという間に過ぎていった。

「性のことは語りにくい」「性も大事だとは思うけれど」などと、敬遠されがちな性の健康。しかし、あえて言いたい。人生の中では「性のことこそが大事」なのだと。性の健康の推進にこれからも関わっていきたいと改めて強く思った。

第46回　セックス・カウンセリング研修会の報告

日本性科学会幹事長　大　谷　眞千子

平成29年6月4日（日）に開催した第46回研修会（メインテーマ：LGBTの健康をサポートする）には、89名の方々にご参加いただきました。

アンケート結果の一部を以下にご報告いたします（回収数50名：会員29名、非会員21名）。

✓ アンケートにお答えいただいた方の職種の内訳

表1. 職種（数値は実員数）

	医師	臨床心理士	看護職	教育職	その他（学生、会社員他）	無回答	合計
合計	19	10	8	1	12	0	50

✓ 講演に対する評価（5段階評価のうち、「あまり‥ない」、「全く‥ない」は回答者ゼロのため除き、また合計数は無回答を除いたもの）

表2. 演題に対する評価

講　演 ロールプレイング	Q1. 講義内容は役に立ちましたか？				Q2. 講義内容はわかりやすかったですか？			
	とても役立つ	まあ役立つ	どちらともいえない	計	とてもわかりやすい	まあわかりやすい	どちらともいえない	計
LGBTの基礎知識とその健康	36（73.5%）	11（22.4%）	2（4.1%）	49（100%）	36（77%）	11（23%）	0	47（100%）
レズビアンのセクシュアリティと健康支援	32（65.3%）	16（32.7%）	1（2.0%）	49（100%）	35（71.4%）	10（20.4%）	4（8.2%）	49（100%）
セクシュアル・マイノリティの医療支援	37（74.0%）	12（24.0%）	1（2.0%）	50（100%）	40（80%）	10（20%）	0	50（100%）
トランスジェンダーのセックス・カウンセリング	31（73.8%）	11（26.2%）	0	42（100%）	36（80%）	9（20%）	0	45（100%）
インテイク・ロールプレイング	27（75.0%）	8（22.2%）	1（2.8%）	36（100%）	28（71.8%）	8（20.5%）	3（7.7%）	39（100%）

✓ 回答を得たうち、4講演、ロールプレイングのすべてで9割以上の方から「役に立つ・わかりやすい」という評価を得ました。

✓ 今後取り上げてほしいテーマについては，以下のようなご要望がありました。

「性欲低下に対する対策」、「草食系男子の治療法」など（医師）、「子供の性別違和感についての学校における対応」、「小・中・高・大学の世代別性教育の実際や展望について」、「フェティシズムの診断と治療」（心理職）、施設内での性問題（高齢者、障害者、児童養護施設etc）などがありました。

また、ご意見として、参加申し込み・受講料入金後の確認連絡のご要望があり検討いたします。

今後とも皆様からのご意見、ご要望を活かして研修会を発展させたいと考えております。

アンケートにご協力いただいた皆様に、心よりお礼申し上げます。

研究倫理～本会倫理委員会設置を受けて～

日本性科学会研究倫理審査委員会委員長
京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻
菅　沼　信　彦

本会に所属する多くの方々は、研究を実施するにあたり帰属する施設倫理員会に申請し、承認を得る過程を経験してみえると推察する。近年、研究に対する倫理規定は種々の不正行為の発覚からも、厳しさを増している。主要な論文や主な学会発表においても、倫理委員会の承認を得たことを記載することが義務づけられ、採択のための最低条件となっている。また科研費等の研究資金獲得のためには、Collaborative Institutional Training Initiative（CITI）Japanプログラムのe-learning（https://edu.citiprogram.jp）の受講等、研究公正に関する学習が義務づけられ、責任ある研究行為、研究における不正行為、盗用、利益相反など、一定の知識レベルの取得が要求される。

本来、個人の研究の自由は保障されるべきものでるとの考え方もあり、はたして現在のシステムが適正であるか否かには議論の余地もあるが、人を対象とする性科学研究においては、文部科学省ならびに厚生労働省の倫理指針に則ることになる。この「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（平成26年12月22日）は、平成29年2月28日に一部改正された。詳細はウェブサイト（http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10600000-Daijinkanboukouseikagakuka/0000153339.pdf）を参照いただきたいが、血液サンプルやゲノム解析によるビッグデータを用いた研究が進展する中、個人情報の適正な管理・流通・環境整備を目的とするものである。少なくとも匿名化やインフォームド・コンセント等の手続きに関しては、さらに厳格さが必要とされている。

十分な倫理審査機構をもたないクリニック等の施設においては、外部委託の形で大学等の倫理委員会に申請することも可能であるが、多くの審査案件を担当する委員会においては手続きも煩雑で、長期の審議時間、かつ多大な経費負担が必要となる。そこで特に医学領域における性科学は、その専門性も鑑み、本学会において対応することが適切であろうとの主旨を基に、倫理委員会の立ち上げに至った。本会研究倫理審査委員会規定は本年7月31日発行の日本性科学会雑誌VOL.35 NO.1 July. 2017に掲載されており、ホームページ上にも公開予定であるが、目的、位置付け、委員会構成等、また審査方法も、他の多くの学会の倫理委員会規定の内容に準じている。要は本委員会が、倫理審査機構として十分な役割を果たすことが重要であり、それは自己だけではなく他者からの評価も受けなければならない。各委員の研究倫理に関する知識の習得、申請者へのコメント・アドバイス、審議過程の記録保持など、本委員会の正当性を明らかにするための研鑽が必須である。さらに当倫理委員会が発展するために、多くの会員から申請がなされることを期待する。性科学研究として専門性の高い内容は、所属機関の倫理委員会以上に適切な審査と示唆に富んだコメントを教示できれば、当委員会の評価も上げるとともに、会員の利便性を増すことができると考えられる。